令和6年度　全国学力学習状況調査分析　及び　学校評価アンケート分析

京都市立向島秀蓮小中学校
校長　太田　美佐和

4月18日に、本校6年生・9年生を対象に実施された「全国学力　学習状況調査」について、結果がまとまりましたのでお知らせいたします。本調査は、国語、算数（数学）の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

今年度の分析は、京都市教育委員会の助言のもと、「**マズローの欲求　5　段階説**」に基づき、本校の児童・生徒の質問紙回答と令和 6 年度の教育活動を照らし合わせて分析を行いました。また、それら分析を行う中で、「後期　学校評価アンケートの回答結果」も併せて、分析しています。

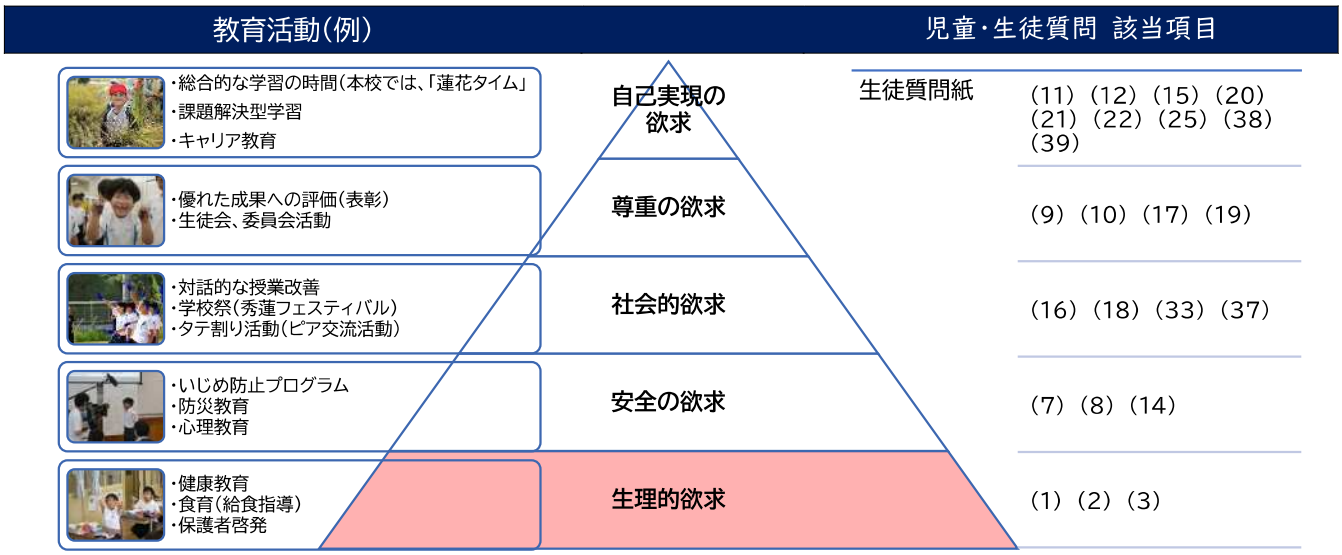
■マズローの欲求　5段階説とは…

人間の欲求を 5 つの階層に分けた理論です。以下のように構成されています

1. 生理的欲求: 食事、睡眠、呼吸など、生命を維持するための基本的な欲求。
2. 安全の欲求: 安全な環境や健康、経済的安定など、安心して生活するための欲求。
3. 社会的欲求: 家族や友人、コミュニティとのつながりや愛情を求める欲求。
4. 承認の欲求: 他者からの尊敬や評価、自尊心を満たすための欲求。
5. 自己実現の欲求: 自分の能力や可能性を最大限に発揮し、自己成長を追求する欲求。

この理論は、下位の欲求が満たされると、次の上位の欲求を満たそうとする人間の心理を説明しています。

この理論を用いることで、本校生徒全体の課題やニーズをより深く理解し、今後本校のより良い教育活動の改善に役立てるための 1 つの拠り所としました。



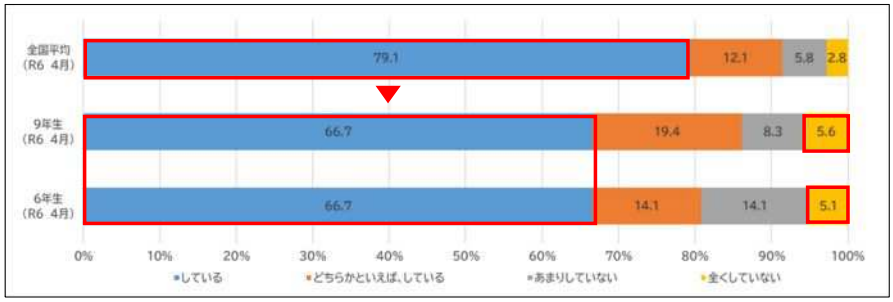
下位の欲求 ⟶ 上位の欲求

生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	尊重の欲求	自己実現の欲求
忍耐力	自己制御	社会的スキル	自尊心（自己肯定感）	自己実現
意欲	問題解決力	共感能力・協調性	自己効力感	自信
集中力	心理的安全性	コミュニケーション能力		

上述した力は、知能検査・学力テストでは測定できないものですが、本校の学校教育目標「『他とつながる力』『未来を拓く力』の育成」の達成及び、日常生活や社会活動において重要な役割を果たすものです。

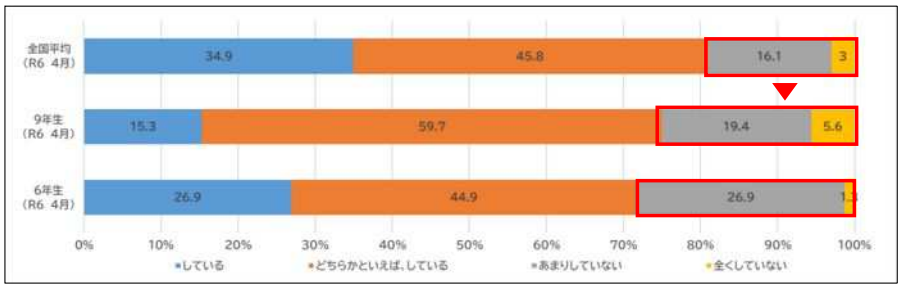
Ⅰ　生理的欲求（食事、睡眠、呼吸など、生命を維持するための基本的な欲求）

全国調査（1）朝食を毎日食べていますか。



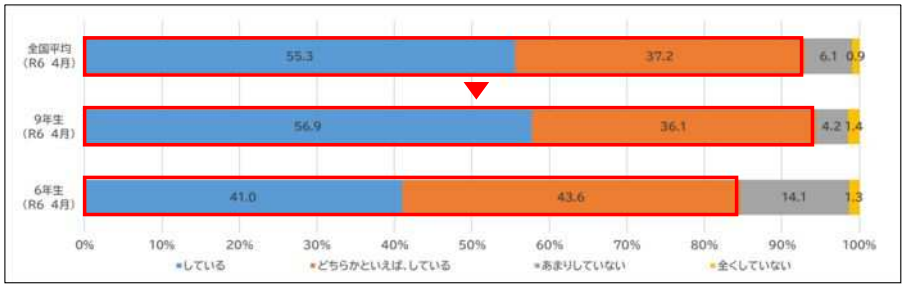
6年生・9年生ともに、全国の回答結果に比べると、課題が残るものとなりました。どちらともに、約15ポイント近く全国に比べ、下回る結果となりました。また、「全く食べない。」と回答した生徒は、全国に比べると2倍近いことがわかります。

全国調査（2）毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



6先生・9年生ともに、全国の児童・生徒の回答結果と比較すると、入眠する時間・意識が低いことがわかります。

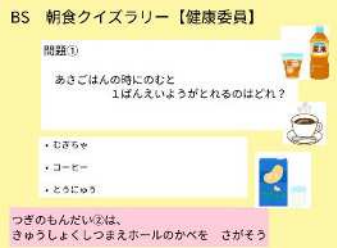
全国調査（3）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



しかし一方で、9年生の起床時刻においては、全国の回答と比べると高いことがわかります。6年生においては、日によってばらつきがあります。

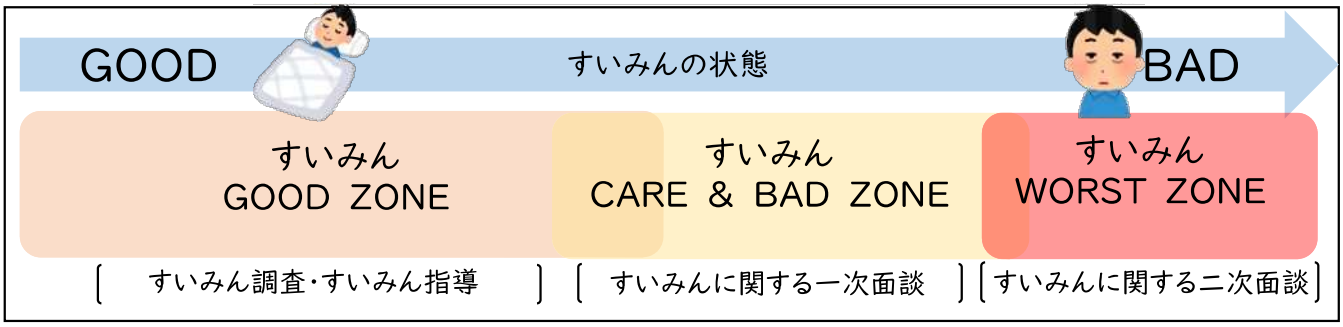
5つの階層の中で、もっとも下位に位置付けられ、自己実現に向けて土台となる「生理的欲求」において、本校生徒は「食」を含め、生活に対する欲求に対して、受動的な面が見られ、全国及び京都府全体の回答結果と比較すると、低いと言えます。これは、R6 年度だけに限らず、ここ数年間本校の課題の一つだと捉え、課題解決の契機となるよう様々な教育活動において実践を推し進めています。

R6 年度は、「朝食をとるメリットを知り、自分の食生活を見直し、改善する意識を高める」ことを目的に、「朝食キャンペーン」と題した取組を行いました。生徒会・健康委員会が、朝食に関わるクイズを作成し、それらを校内に展示し、順番に解いて回ることで、参加者が楽しみながら、自身の食生活を見直すきっかけづくりとしたものです。約1ヶ月の期間内で、生徒はこちらが意図した「楽しみながら」学校内のクイズを探し、回答を考える言動が多々見られました。特に、BS 生徒は、中間休みや、放課後の時間を利用し、友だちと考えながら、校舎内を練り歩く姿が印象的でした。



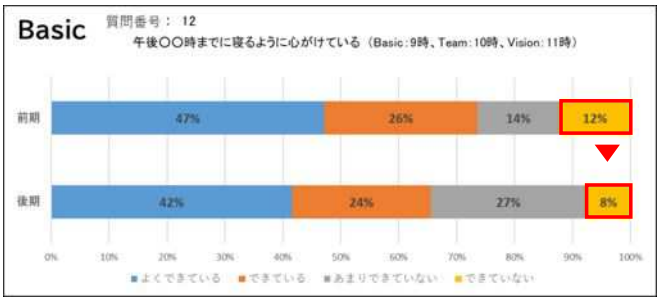
また、発達段階によって、教科授業で、食べることの必要性を考えることや、食に関する知識・技能を定着させるための調理実習を取り入れるなど、授業者も様々な工夫を凝らし、授業実践を行っています。

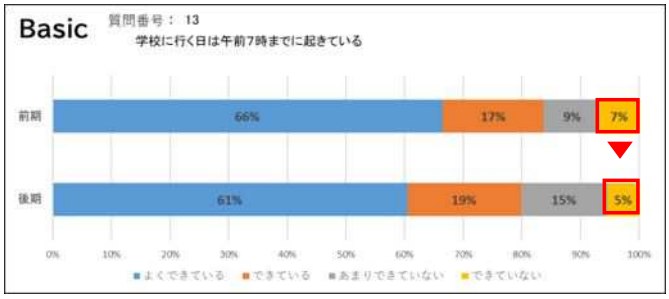
「睡眠」においても、各種アンケート結果に目を向けると、十分な睡眠時間が確保できていないことや、細切れ睡眠による眠りの質の低下が目立ちます。そこで、本校は次の通り、睡眠調査の実態から、個別面談や健康相談を実施しています。



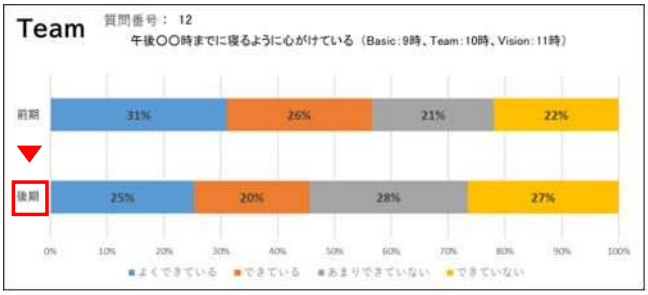
また、学年ごとの目標を設定し、それぞれの学年の目標を達成すべく学級指導及び学年・ステージ指導を行っています。

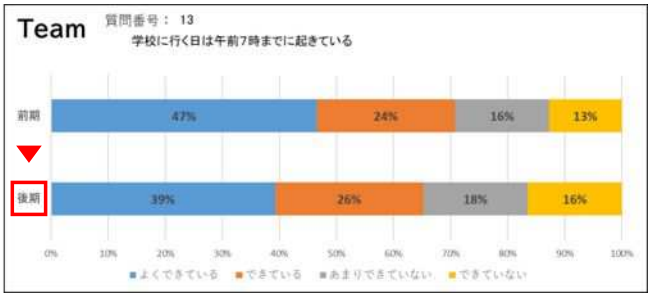
実施時期や、実施前・実施後の指導等を改善させていく中で、生徒の学校評価アンケートにおける回答結果は、次の通りです。





BasicStage は、「午後〇〇時までに寝るように心がけている。」という質問に対し、「できていない。」と回答した生徒の割合が前期と比較し、減少傾向にあります。これは、「すいみんに関するアンケート」や「すいみん調査」から睡眠に課題のある生徒に対し、学年担当によるすいみん面談や養護教諭による睡眠相談を行い改善に向けての提案や時には励ましの声掛けをしたことが大きな要因だと捉えています。しかし一方で、「よくできている」「できている」と回答する生徒の割合が減少傾向にあります。「起床時間」の調査においても、同様の回答結果が見られることから、本校として、一つは今年度睡眠の取組を行うにあたっての授業や面談を推し進める中で、生徒が「適切な睡眠」について理解を深めていることが考えられます。

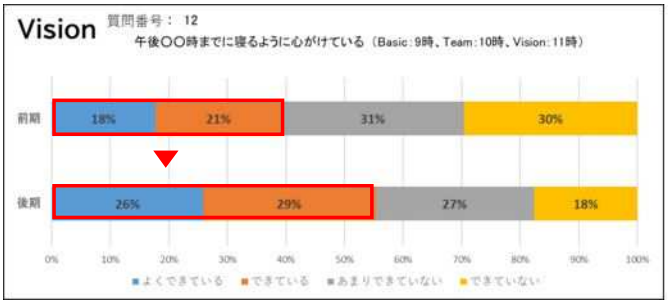


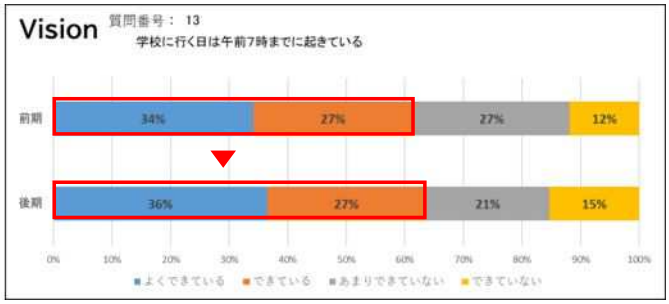


TeamStage は、今回課題が残るものとなりました。発達段階においては、BasicStage 生徒と比較すると、生活リズムを一定コントロールすることができる段階であることや、「適切な睡眠」においても、例年の知識や情報がある中での回答結果として捉えると、TeamStage 生徒は、生活に対する欲求を受動的に捉えているからだと考えます。

「家の人に言われるから寝よう。」や「遅刻すると注意されるから。」といった外発的な動機で自身の行動をコントロールする側面があるのではないでしょうか。

また、「毎朝必ず朝ご飯を食べている」回答も、前期よりも減少傾向にあるのは、「適切な睡眠」ができていないことと大きく関係していると言えます。身体も心も著しく成長を迎えると言われる成長の「黄金期」であるがゆえに、学校・家庭での速やかな改善が必要です。まずは、この子どもの実態を受け入れ、共に生徒のより良い成長を促すことができればと考えています。





Vision Stage は、「入眠」および「起床時刻」において、前期と比較すると向上傾向にあることがわかります。

「部活動の中核を担う学年」であることや、「進路」を意識し、これまで以上に学習に対して意識をすることや、校外での習い事（塾等）を始める生徒が増加することから、例年の傾向として、どのステージよりも低い数値になる傾向があります。

では、今年度なぜこのような生徒の回答に高まりが見られたかを、Vision Stage 生徒に直接聞いてみました。

＼9年生に聞きました／

今回、回答してくれた９年生

9年生 Ｉさん･Ｏさん･Ｎさん

第６期　生徒会本部（＊現在は、第７期）で生徒会長・副会長・体育委員長という立場で、学校全体を盛り上げ、牽引した３名。

Q 睡眠時間で何か意識するようになったことはありますか？

〈Ｉさん〉受験勉強もあり、十分な睡眠時間の確保が厳しいです。ただ、心がけていることは、毎日決まった時間に起床・就寝することは意識しています。短い睡眠でも、生活リズムは崩さないようにしています。そのため、下校後の睡眠に気をつけています。どうしても、夕方に大きく睡眠時間を取ると、就寝リズムが崩れてしまいます。学校での業間やお昼休みに仮眠をとることで調整しています。

Q 食事で心がけていることは、ありますか？

〈Ｏさん〉自分は、小学校時より野球を続けていく中で、中学の後半期より、他者と比べ、スピード・力に差を感じることが増えました。これまでは、がむしゃらに練習をし、「とにかくたくさん食べる」ことで、身体を大きくすることばかりを考えていましたが、それでは、自身が思う結果につながらないことを体感し、悔しい思いをしたこともあります。そこで、できる限り食事量と栄養バランスを考えるようにしています。また、三食必ず摂るようにしています。特に起床後の食事は一日の始まりです。自分も寝起きに食べにくいことが多々あったので、起床時間を意識しています。

Q 生活リズムを整える・改善するためには？

〈Ｎさん〉自らが課題意識を持つことが大事だと感じています。自分も、最後の夏季大会・受験といった状況になって、「自分事」として捉えるようになりました。今までは、「お母さんに言われるから…。」「先生が言っていたから…。」の行動が多く、自分事となりきっていない状況がありました。自分事として捉え始めると、これまでに比べ、１日の時間の使い方が大きく変わりました。家庭学習に取り組む時間、友だちと遊ぶ時間、自分の趣味の時間…忙しいと思うこともありますが、充実感が上回り、得した気持ちになります。

「食」に関しては、生徒会・健康委員会が中心となって行った「朝食キャンペーン」や、栄養教諭が中心となり運動部生徒を対象に実施した「勝つためのご飯～身体を大きくするためのカチメシ～」といった「食事指導」。栄養教諭が、給食カレンダーをアレンジし、献立の説明を吹きこみ、食に関する知識・栄養バランスなどを日々発信しています。

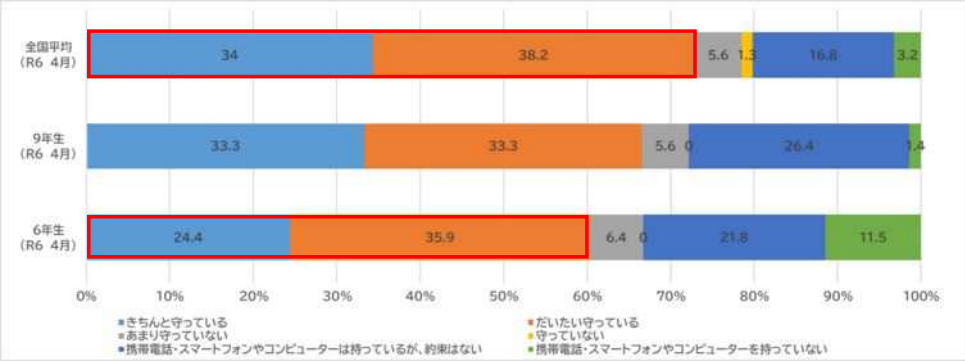
睡眠に関しては、「すいみんに関する学習」、生徒会本部生徒立案の「シエスタ」（午後からの授業のために、お昼休みを15分間活用し、お昼寝の時間を設定　＊5年生以上で実施）、すいみんに関する全体授業、個人面談等が影響していることが、生徒によって個人差があるものの、生徒の意識に根差し、それぞれの生活に対する欲求の高まりと比例し、こちらが意図した結果に結びつくものだと捉えることができました。

しかし一方で、全国や京都府の数値を拠り所に考察すると、本校生徒の解決すべき課題は多々あると言えます。「自己実現の達成」に向けて、もっとも基礎となる「生理的欲求」が十分満たされないことは、我々大人が育みたい「忍耐力（我慢強さ・粘り強さ）」や、「様々なことへの意欲・関心の低下」、「あらゆることへの集中力」といった能力に大きく影響します。これは、社会生活を円滑に送るために欠かせないスキルだと言えます。学校としては、これらの能力が確実に育成できるよう、今後も引き続き、生徒の課題解決に向けた手立てを模索し、実践していきたいと考えています。

また、生徒たちの健全な成長を支えるためには、家庭の協力が欠かせません。学校と家庭が一体となって、生徒の課題解決に取り組むことが重要だと捉えています。今後とも、ご協力をよろしくお願いします。

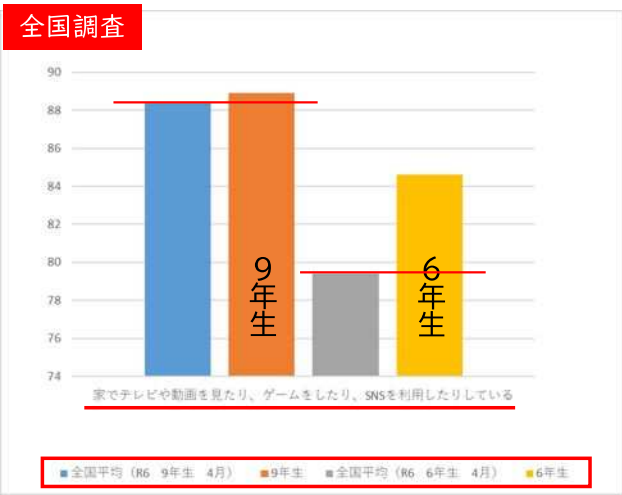
Ⅱ　安全の欲求（安全な環境や健康、経済的安定など、安心して生活するための欲求）

全国調査（7）携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



6年生は、「家庭での約束事等」を守る意識の違いが全国平均と比べると低いと言えます。

全国調査



様々な要因が考えられる中で、質問（26）に目を向けると、「放課後、休日の家庭での過ごし方」の項目においては、「テレビや動画を見たり、ゲーム、SNS をしたりする。」と回答した割合が、6年生は全国と比べ6ポイント以上上回っています。しかし一方で、「勉強や読書をして過ごす」と回答した割合は、12ポイント以上低い結果となりました。

これは、9年生においても同じ状況です。

携帯電話、スマートフォン、コンピューターは、使い方次第で生活全般に役立つ一方、誤った使い方をすると他者とのトラブルの原因や自身の能力低下の原因、場合によっては命に係わる危険性も含んだものとなります。今後も、携帯電話をはじめとするデジタル媒体との付き合い方を考える機会（情報モラル教育・携帯マナー教室等）を意図的に設定していきたいと感じています。

また、保護者の方においても、以下の点にご注意いただき、お子様の健全な成長をサポートしていただければ幸いです。

●使用時間の制限
お子様が携帯電話や SNS を使用する時間を適切に管理し、特に夜間の使用を控えるようご指導ください。

●適切なコンテンツの選択
お子様が閲覧するコンテンツが年齢にふさわしいものであるかを確認し、不適切な情報から守るよう努めてください。

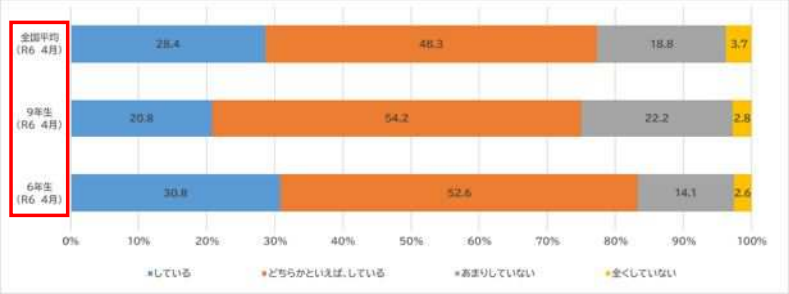
●コミュニケーションの促進
家族との対話を大切にし、携帯電話や SNS に依存しない生活習慣を身につけるようサポートしてください。

●プライバシーの保護
お子様が個人情報を不用意に公開しないよう、プライバシーの重要性を教えてください。

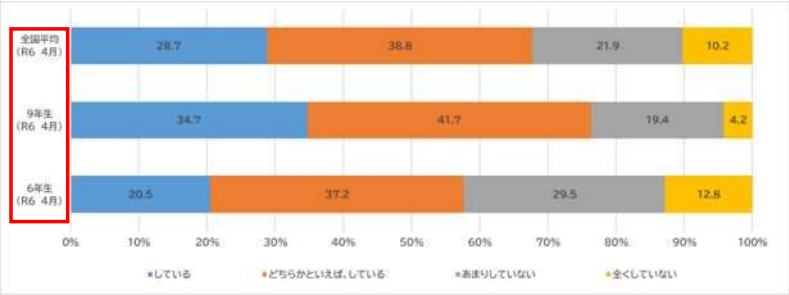
インターネットやスマートフォン、SNS などのデジタル技術が普及した時代に生まれ育った今の子どもたち（デジタルネイティブ世代）は、幼少期からデジタルデバイス（携帯電話・PC 等）に触れているため、自然にこれらの技術を使いこなすことができ、情報の検索やコミュニケーション、エンターテインメントなど、日常生活の多くの場面でデジタル技術を活用することができます。しかし一方で、様々な問題点も指摘され、適切な指導とサポートが求められています。

だからこそ、学校と保護者の方が一体的に、子どもに適切な関わりを持つ必要があると感じています。子どもの健全な成長と安全を守り切るためにも、保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

全国調査（8）健康にすごすために、授業や保健室の先生などから教えられたことを普段の生活に役立てていますか。

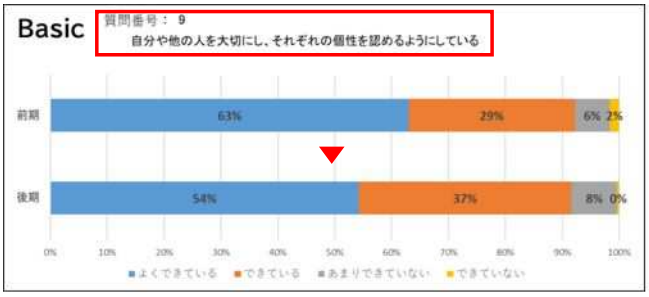


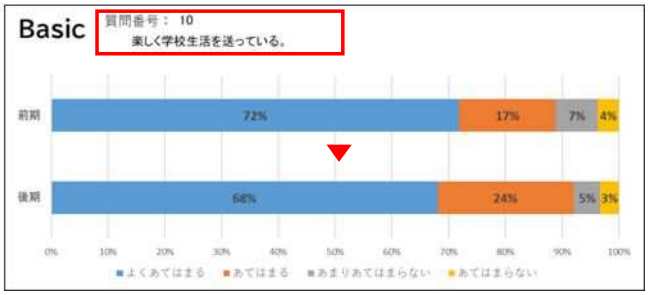
全国調査（14）困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

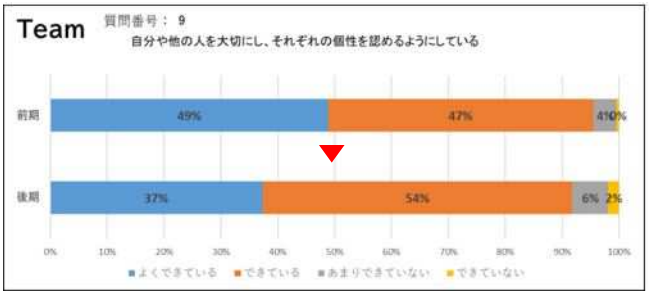


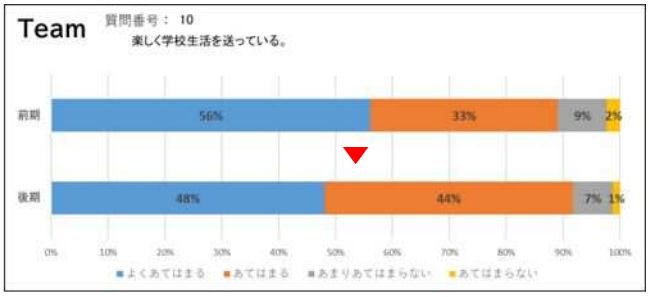
（8）及び（14）の回答結果から、生徒の「安心・安全」の要素に、我々教職員が大きく影響していることがわかりました。これは、私たちとしては、非常に嬉しく捉えていると同時に、今後より信頼関係が深まるような指導・支援を行いたいと考えるモチベーションとしています。

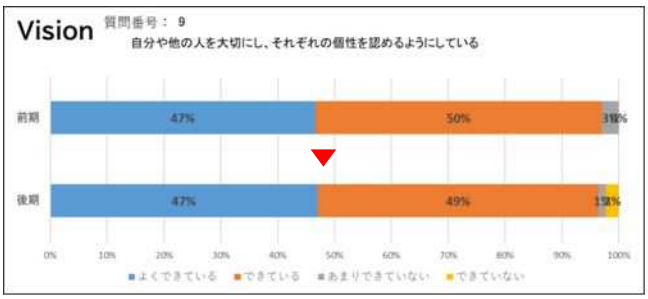
これは、生徒の学校評価アンケート「安全の欲求」に連関した質問における回答結果となります。

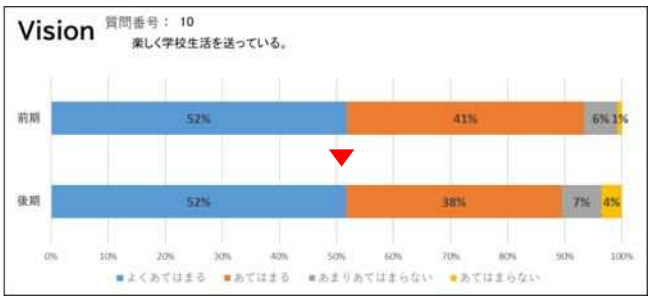








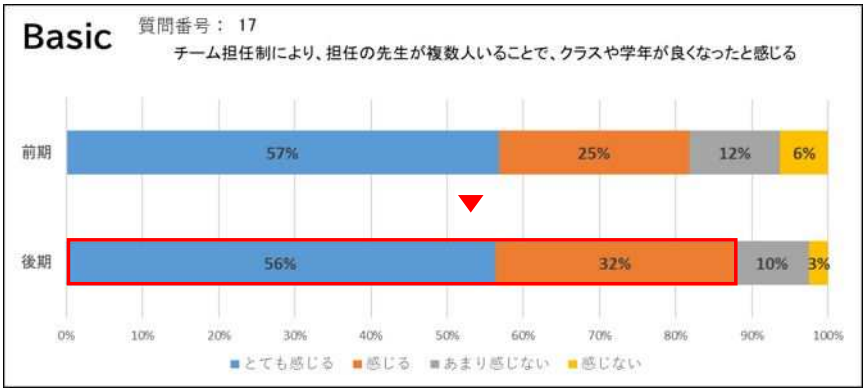




前期と比較すると、数ポイント減少する結果となりましたが、全てのステージにおいて9割の生徒が肯定的な回答を行っています。これは、「自己の生き方」を見つめたり、捉えたりすることや、「他者とより良く生きる」ための基盤となる道徳性、「社会との関わり」といった社会の一員としての責任の理解などを道徳や特別活動等の授業を通して、育まれていると捉えています。9年生の結果に目を向けると、全国に比べ高いことは、社会で大きく問題視される「いじめ」に対する取組、各

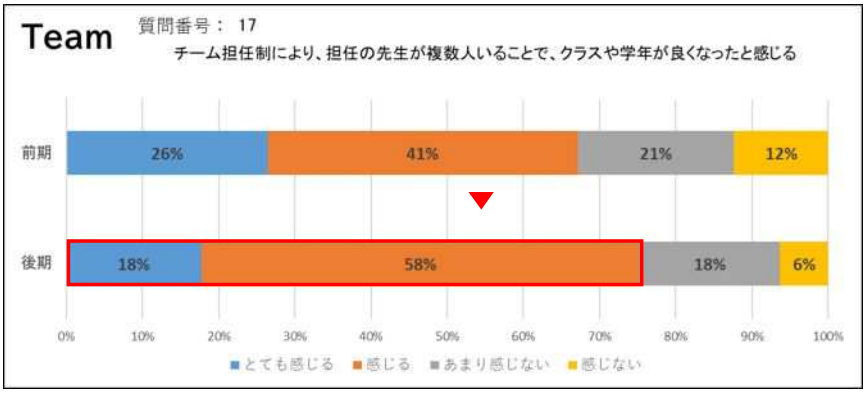
種アンケートや年間を通した取組、蓮花タイム（総合的な学習の時間）で扱う防災教育・安全指導などが、学年を上がるにつれて、積み重なり、生徒の意識へ浸透しているためだと考えられます。

また、今年度より1～8年生は「チーム担任制」9年生は「複数担任制」を導入したことが、生徒にとって大きく影響しているものだと感じた結果は、次の通りとなります。



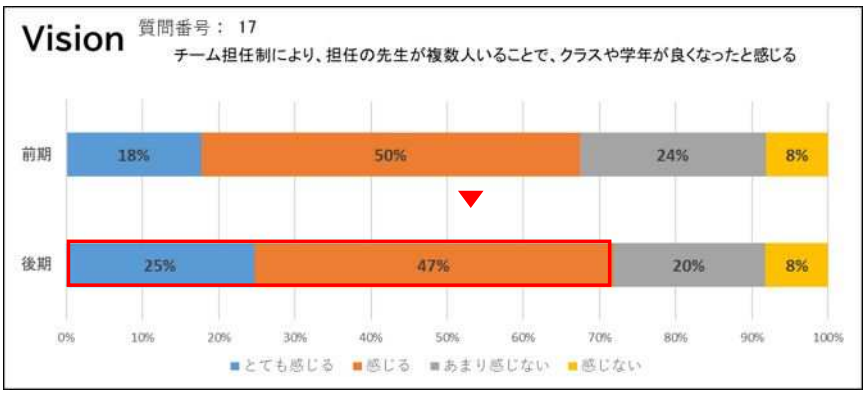
BasicStage は、前期と比べ「肯定的な回答（とても感じる・感じる）」が6ポイント上昇しています。

また、否定的な回答「あまり感じない」はは、12%から10%。「感じない」が6%から、3%へと減少しています。



TeamStage は、前期と比べ「肯定的な回答（とても感じる・感じる）」が9ポイント上昇しています。

また、否定的な回答「あまり感じない」はは、21%から18%。「感じない」が12%から、6%へと減少傾向にあります。



VisionStage は、前期と比べ「肯定的な回答（とても感じる・感じる）」が4ポイント上昇しています。

また、否定的な回答「あまり感じない」は、24%から20%と減少しています。

「感じない」と回答する生徒の変容は、見られませんでした。

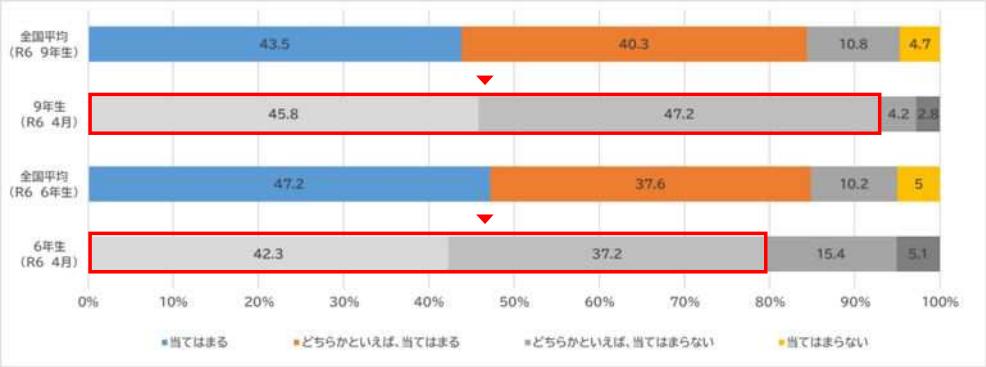
前期の学校評価の分析時もお伝えした通り、生徒は「自分が話しやすい先生に相談がすることができるのが良い。」や「色々な先生に話を聞いてもらえることが嬉しい。」などチーム担任制のメリットを感じる声があります。

生徒は、「チーム担任制」という新たなシステムを契機に、これまで以上に、多くの先生と話す機会が生み出されていることを体感しているのではないでしょうか。もちろん、まだまだチーム担任制においては、見直し・改善を要する所はあります。

より生徒の「安全の欲求」に大きく寄与していけるよう、今後も改善を推し進めていきたいと考えています。

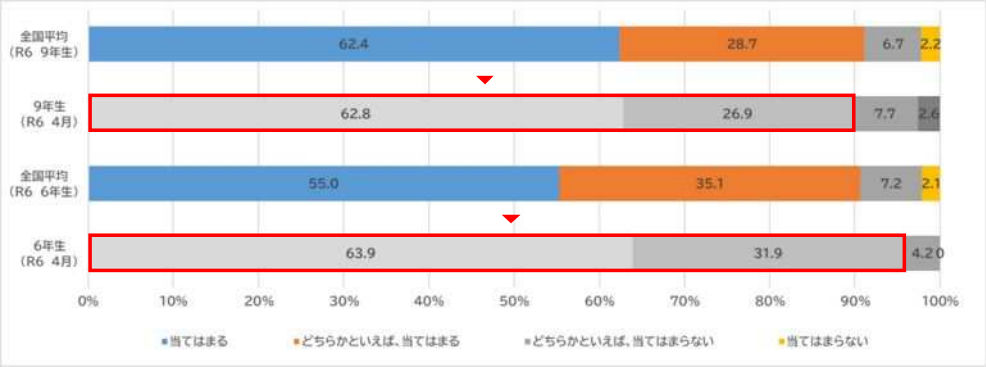
Ⅲ　社会的欲求（家族や友人、コミュニティとのつながりや愛情を求める欲求）

全国調査（16）学校に行くのは楽しいと思いますか



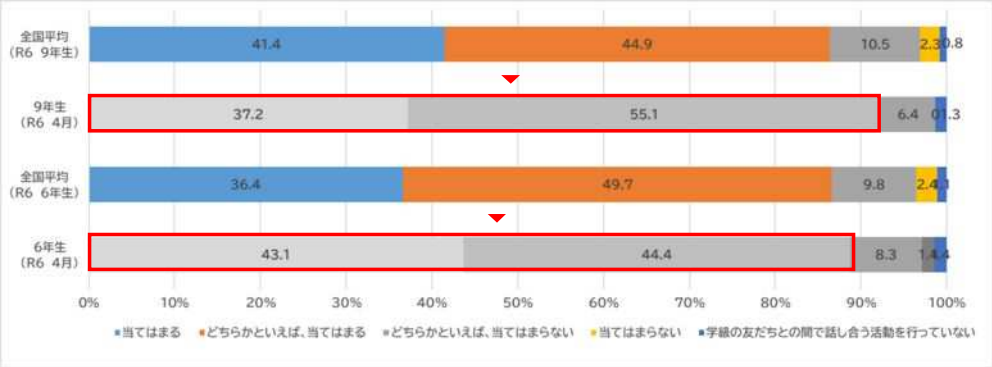
「学校に行くのは楽しい」という項目において、6年生は、全国に比べ、やや低い回答となったが、9年生は全国に比べ高い回答結果となりました。

全国調査（18）友達関係に満足していますか



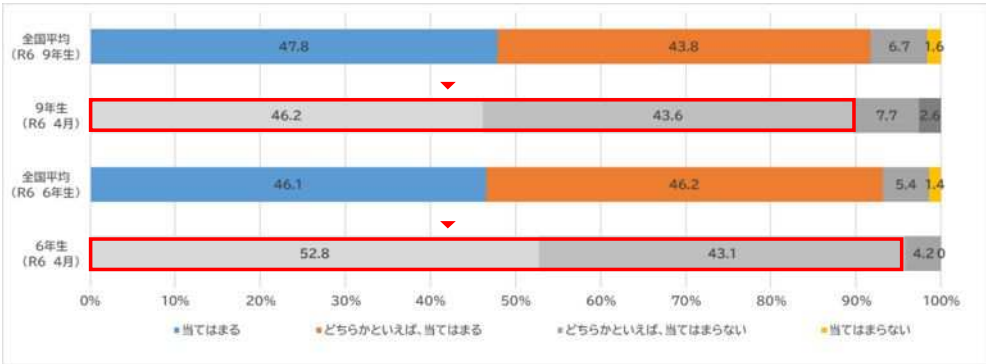
「友達関係に満足している」という項目において、6年生は、全国に比べ高く、9年生はやや低い回答結果となりました。

全国調査（33）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



「友達と対話することで、自身の考えが深まる」という項目において、6年生・9年生ともに全国平均より高い回答結果となりました。

全国調査（37）授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



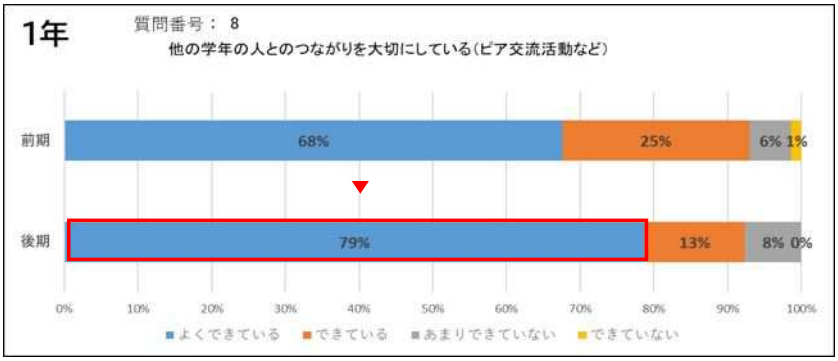
「他者と協力しながら課題解決を行っている」という項目において、6年生は全国と比べ高く、9年生はやや低い回答結果となりました。

社会的欲求においては、6年生・9年生ともに全国と比較した中でも、全国平均に比べ、高い傾向にあります。また、ここ数年間の本校生徒の経年変化を見ると、学年が上がるにつれて、確実に高まりを見せています。学校への楽しみや友達、先生などと話し合うこと、協同的・協働的な活動を通して、他者が大きな存在であることを自認する機会や経験が、確実に

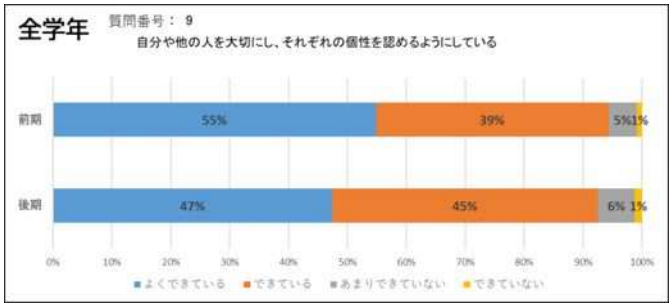
年数を重ねるごとに育成されることを実感しています。

本校では、それら「社会的欲求」を高めている背景として、小中一貫を手段とした「ピア交流活動」が大きいと捉えています。開校時は、行事を通したピア交流が中心でしたが、計画的・継続的に推し進めていく中で、校内では自然発生的にピア交流が生まれています。上級生の数値が上昇傾向にあることは、これらピア活動により創出される効果が、生徒の実感へとつながっていると捉えています。

また、1年生の学校評価アンケートにある「他の学年の人とのつながりを大切にしている（ピア交流活動など）」の回答内訳を確認すると、「よくできている」と回答した結果が、前期に比べ11ポイント上昇しています。



今年度より入学し、1年生を迎える会に始まり、はじめての給食、週に2回設定している清掃活動などを通して、1年生は上級生へ「あこがれ」を強く感じている言動が見られます。学校での活動のすべてに「初めて」がつくこの1年生の段階で、上級生のサポートは、今後の学校生活の安心感や、充実感を生むためには欠かせないと感じています。また、この下級生の「あこがれ」が、上級生の「やりがい」につながり、上級生の主体的なピア交流活動の姿が見られます。この「つながり」から生まれるサイクルが上級生の自己有用感を高めることにつながり、結果として学年が上がるにつれて「社会的欲求が満たされている」と感じる生徒が多いと捉えることができます。



また、生徒は「自他を大事にするために、それぞれの個性を認めるようにしている」という質問において、前期と同様に「よくできている・できている」と肯定的な回答をした生徒が、全てのステージで90%を超えていました。日常生活に目を向ける中で、ピア学年同士が触れ合ったり、会話をしたりする場面を多々見かけます。上級生・下級生にとってのピア交流が日常に「当たり前」と溶け込んでいるからこその結果だと捉えています。

これらの結果は、本校が次のフェーズに向かうための土台作りだと捉え、本校だからこそできる「新たな変化」につなげていきたいと考えています。上級生も下級生もお互いが「あこがれにあこがれる関係性」を生み出し、そこから刺激を受け、お互いが高め合おうとする「意欲」につなげていくことが重要になると感じています。それがひいては、本校の掲げる「他とつながる力」の達成に向けた一助になると今回の結果から捉えています。

また、「社会的欲求」を高める要素の一つとして「日々の授業」が挙げられます。

3年前の全国学力学習状況結果や、全市共通テストの結果・各種アンケートの回答結果から本校は、生徒が「自らの考えを伝え合うこと」や、「他者と協働し課題解決を行う」という質問について、課題があることがわかりました。また、「自ら課題解決をしている」や「家庭での学習時間」の結果においては、全国と比較すると著しく低く、学習習慣や基礎学力の定着、生徒の主体性において、大きな課題があることがわかりました。そこで、本校は、生徒の「主体的な学びの実現」に向けた手段の一つとして、「反転学習」に取り組み、生徒の主体性向上を目指すこととしました。

従来の授業スタイルとしてイメージされる授業者が、授業で説明する内容や、単元のまとめとして行う学習課題などを動画等で配信し、事前に視聴してくるスタイルを取り入れました。そうすることで、授業者が生徒の主体的・対話的に学ぶ場面を意図的に設定できることや、応用力を身に付けさせる場面を確保することができるようになりました。

実際に配信している動画は、次のようなものです。（左から7年生理科・4年生国語・6年生理科）
この他にも多くの教科で、動画を配信し授業を行っています。

「知っている先生が話をしてくれるので、自宅でも授業を受けているように感じる。」「いろいろな先生が登場して、おもしろい。」といった声が多く、既存の映像よりも視聴率が上がることから、多くの教科がオリジナル動画を配信しています。

手探りの中での取組でしたが、生徒の家庭での学習と学校で行う学習がうまくつながり、自立的学習者に向けた第一歩を確実に踏み出しているようにも感じています。また、実際それらを視聴する生徒は、「反転学習」をどう受け止めているかを5年生リーダーにインタビューしてみました。

5年生リーダーに聞きました！

今回、回答してくれた５年生

5年　組　Yさん・Nさん

R6 年 10 月 17 日（木）教職員全員が、生徒の主体性向上に向けた授業改善を目的に、校内授業研究会を実施しました。

Q　授業までに反転学習課題（動画含む）がある方が良いと思いますか？

〈Yさん〉絶対にある方がいいと思います。授業までに、次の課題がわかり、次の授業が楽しみになります。また、あることでわからないことを事前に調べたり、これまでのノートを見返したりするので、力がついているように感じます。

Q　反転学習の後は、どんな授業になっていますか。

〈Nさん〉反転学習後は、友だちと課題を解決する時間が増えます。今日の授業のように、グループで一つの課題に対して、みんなで事前に考えてきた意見を出し合い、みんなが納得する答えを出す活動です。反転学習課題を通して、事前に考えてきているので、何を伝えたら良いかや、答えを出すまでに考えたことなどをみんなと共有する時間がいっぱいあります。課題ができていない人ももちろんいますが、話し合いをしている中で、考えが思いつくこともあります。また、たくさん時間があるので、自分だけでは気が付かなかった考え方や見方に気づくことができます。

Q　対話的な活動が多い授業は、楽しいですか。

〈Yさん〉僕は学年が上がるにつれて、課題解決の時間が増えているように感じます。自分の考えを伝えて、みんなに理解してもらうことの難しさを感じつつ、「自分たちで問題に取り組んでいる。」という実感があることと、みんなで解決できたと思う瞬間や、自分たちで考えたことを、他のグループが納得してくれたりすることは、とても嬉しく思います。

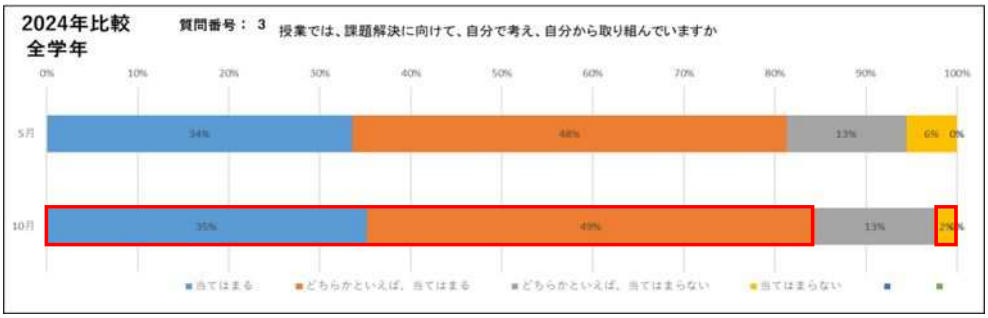
〈Nさん〉私も同じ感じです。一つの課題に対して、ヒントはこれまでの授業の内容や、反転動画の内容。それらと、グループのみんなの意見を組み合わせて考え、答えを出す過程は、本当に楽しいです。

Q　明日の授業も楽しみですか？

〈Yさん・Nさん〉はい！楽しみです。頑張ります。

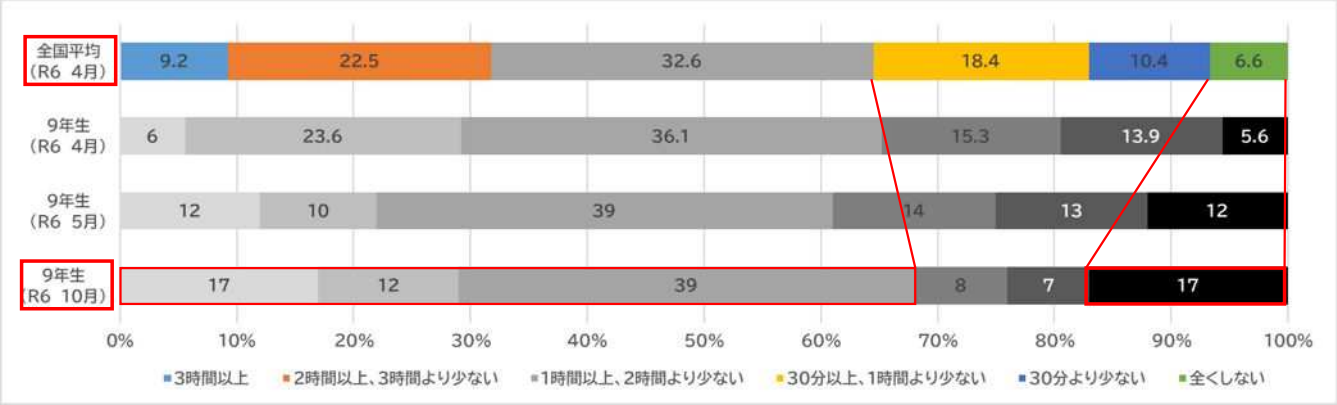
これら取組を通して、「生徒は課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」という質問において、肯定的な回答が増加傾向にあります。これは、5年生インタビューにある通り、「授業内の課題に対して、他者と協働する場面」を授業者が意図的に設けていることが大きな要因だと捉えています。授業内の様子を見ていても、自然発生する会話の中身を聞くと、課題を解決しようとする言動が見られます。

次のグラフは、学習に関するアンケート（生徒の変容を見取るための資料）の一部です。



授業者は、授業を通し、友だち・先生だけでなく、「体験や社会、教材、興味、関心」との「つながり」を意識した授業設計・授業実践を行っています。

しかし一方で、実際生徒の声に耳を傾けると、まだまだ手放しに喜ぶことはできません。「勉強が計画通りに進まない」や「上手な勉強のやり方がわからない」といった声があります。また、多くの生徒から総括考査後に「もう少し早く勉強しておけばよかった。」や入試を前にした9年生から「どのように勉強したら良いのかわからない。」といった声もあります。また、今年度 4 月に実施した全国学力・学習状況調査の報告書（質問紙調査）から、平日（月～金）1 日当たりの学習時間を見ると、本校 9 年生の「2 時間以上勉強している生徒」は全体の 29.6%（6 年生は15.4%）でした。これは、全国と比較すると、1 日あたりの学習時間に大きく差があり、学年が上がるにつれてその差は大きくなる傾向が見られます。



平日に生徒が部活動や習い事を終えて帰宅した時刻から就寝するまでの時刻を考えれば、平日の学習時間をこれ以上増やすことは難しく、2時間以上学習に取り組む生徒は、学校外での学習が習慣付いてきていると言えます。しかし一方で、合わせて32%となる平日の学習時間が1時間未満の生徒たちは、学習習慣が確立されているとは言い難い結果が見えてきました。また、それら学習時間の短さは、総括考査・京都市共通テストの正答率・9年時高校入試の正答率の低さに相関関係があることは明らかです。

生徒たちが持つ学習上の悩みとして、①『学習を進める上で計画を立て、必要に応じてそれらを修正していくこと』②『自らの学習過程を客観的に捉えることができていないこと』③『自身が行っている学習方法の良し悪しを検討し、課題に応じた最適な学習方法を選択することができていないこと』です。これら3つの要素が相互作用し働いていないため、生徒は不安感をもちながら学習を進め、自らの学習に対して自信をもつことができないため、学習に消極的な状況が生まれていることが考えられます。「確かな学力」の育成に向けて、生徒の主体性向上、言い換えるのであれば、「生徒の心に火をつける」ことを目指す場合、上述した3つの要素を視野に入れた支援がなければ、「自分にもできる」という自己効力感の育成は難しいと言えます。

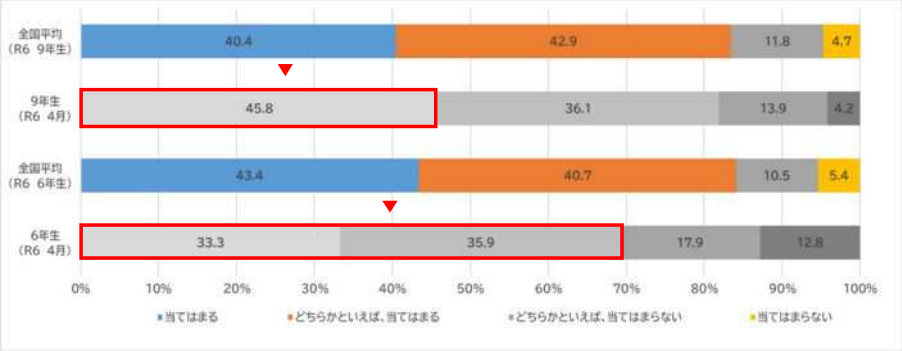
学校評価アンケートにある「自分をふりかえってよりよくしよう（自律的活動力）」の項目は、前期に比べ、どのステージも大きく向上傾向にあることから、生徒がもつ「頑張りたい」「よりよくなりたい」という思いが表出されています。そういった生徒の思いの達成に向けて、生徒の主体性を育成する取組を進めていきたいと思います。ひいては、この力が今年度掲げた「生徒の自己調整力育成」に大きく寄与するものだと捉え、本校学校教育目標達成の一助になると確信しています。

これまでの経験や学校文化に伴う概念から一線を画し、「変える、変わる」を軸とした挑戦を続けていきたいと考えています。

＊生徒も教職員の研修会に参加し、より良い授業づくりに向けて意見を出し、共につくる授業を大切にしています。

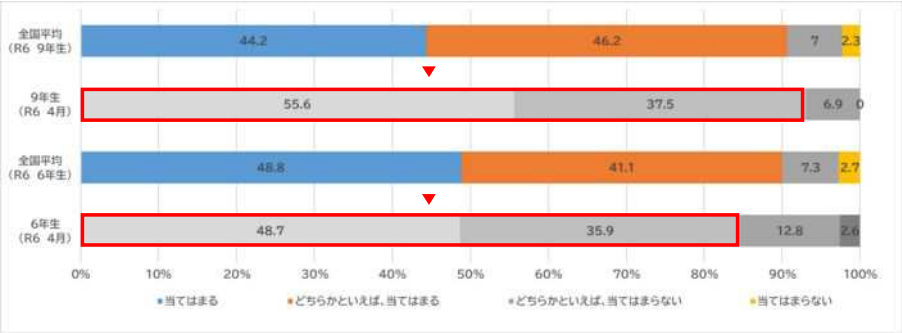
Ⅳ　尊重の欲求・承認の欲求　（他者からの尊敬や評価、自尊心を満たすための欲求）

全国調査（9）自分にはよいところがあると思いますか



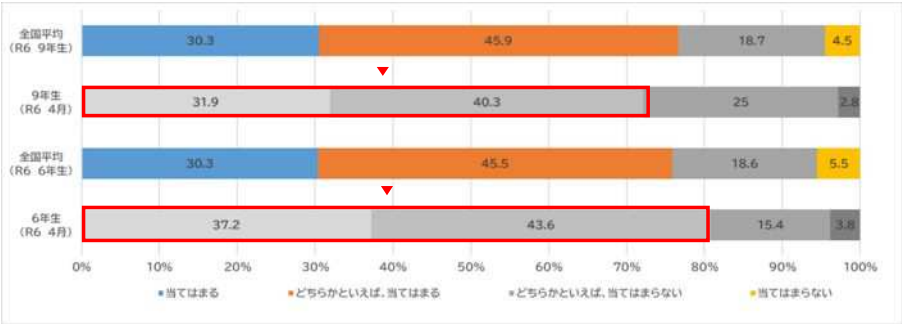
「自分にはよいところがある」という項目において、6年生は全国に比べ、10ポイント以上低いが、9年生は「当てはまる」で見ると、5ポイント高い回答結果となりました。

全国調査（10）先生は、あなたのよりところを認めてくれていると思いますか



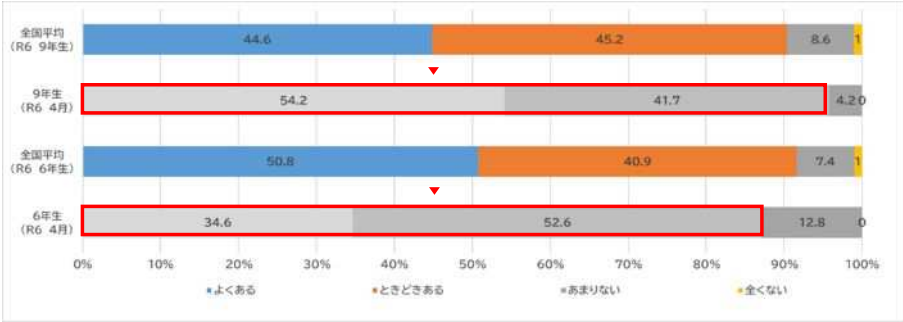
「先生はあなたのことを認めてくる」という項目において、肯定的な回答として6年生は全国に比べ、やや低いが、9年生はやや高い結果となりました。また、「当てはまらない」はどちらの学年も全国と比べ低い回答結果となりました。

全国調査（17）自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」という項目において、肯定的な回答として、6年生は5ポイント高く、9年生は4ポイント低い結果となりました。

全国調査（19）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



「普段幸せな気持ちになる」という項目において、6年生は全国平均よりやや低い回答となったが、9年生は6ポイント高い回答結果となりました。

尊重の欲求・承認の欲求においては、6年生・9年生ともに全国と比べ、高い傾向にあることがわかりました。また、「社会的欲求」と同様、学年が上がるにつれて高まる傾向が見られました。とりわけ、その中でも「教員との対話」が増加傾向にあるのは、9年時の進路実現（自己実現）に向けた意識が高まることだと捉えています。

日々の授業や業間、部活動、委員会、放課後学習の時間を通して、生徒は目標に向けて邁進する言動が見られます。その達成に向けて、自身で教員から様々なアドバイスを求める場合や、励ましの言葉を必要する場合などを見極めて、自ら教員に声をかける姿があります。

また、それらも連関して、「日常生活においての幸福感」は、9年生に近づくにつれて高まっているように感じます。「自分にはできることがたくさんある。」や「自分は周りから大切にされている」といった自己肯定感が高まるような活動が、生徒自信の「尊重の欲求」及び「承認の欲求」へとつながっているように感じます。本校では、それら高まりの要因として、今年度本校の「尊重の欲求・承認欲求」を高める活動をふりかえりました。

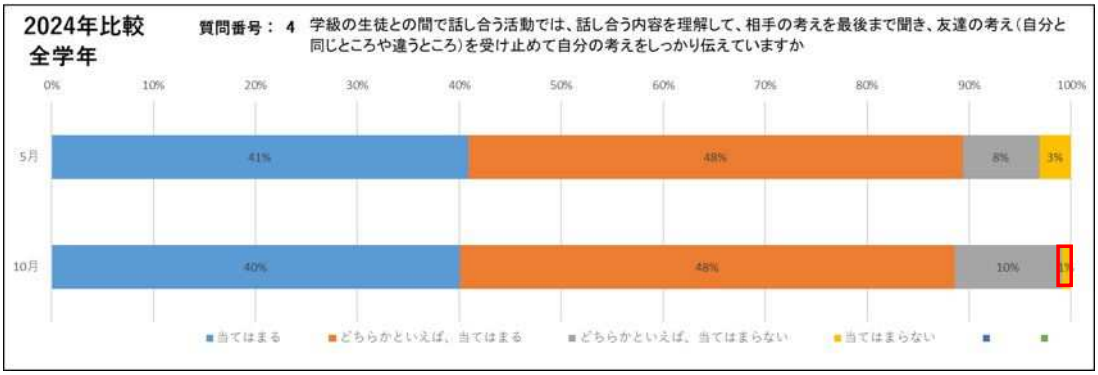
1学期の「秀蓮フェスティバル体育の部」や「全校ピア交流体育」に始まり、「秀蓮フェスティバル音楽の部」、そして今学期の「秀蓮フェスティバル　文化の部・舞台の部」がありました。

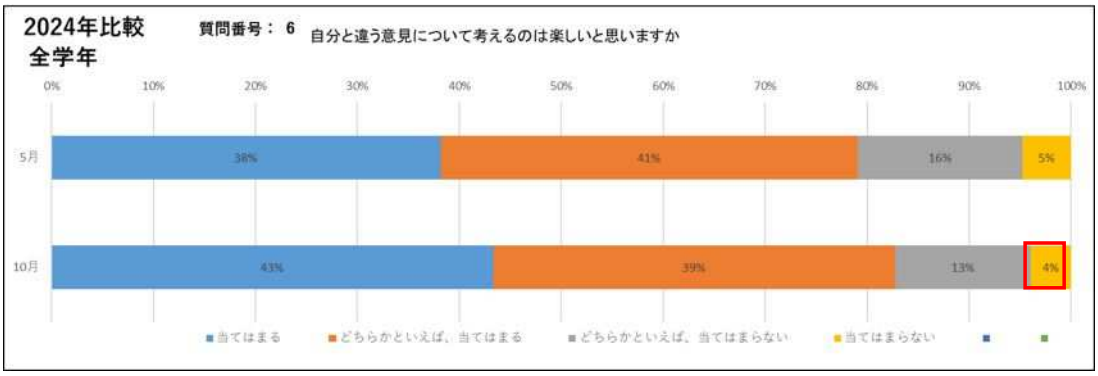
学校評価アンケートに目を向けると、「他の学年の人とのつながりを大切にしている（ピア交流活動など）」の質問項目では、前期と同様、肯定的な回答が8割を超えています。この質問項目は例年、肯定的な回答の割合が高い傾向にあります。1年生から9年生が在籍する本校独自の異学年交流の機会を意図的に設定していることが要因だと考えられます。また、この異学年交流の内容は、学校行事だけに留まらず、委員会の取組として「こんな交流をやってみたい。」という生徒が主体的に取り組むものが増えてきました。生徒総会でも異学年交流を増やしていきたいという意見や、生徒会役員選挙に立候補する生徒が「異学年交流」を主としたものを公約に盛り込み、今後に向けた意欲を感じさせます。

下級生は、上級生をモデルとしてあこがれをもち、上級生は下級生をやさしくリードすることにやりがいを感じることで自

己有用感を高めることができていると考えられます。今後も、生徒自身が企画運営を行う異学年交流の取組を推進していきたいと考えています。

また、これら異学年交流を契機とした「他者を意識すること」に相関関係がある「学級の生徒との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかり伝えていますか。」や「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という学校独自アンケートでは、5～10月の変容に目を向けると、「当てはまらない」と回答する生徒が減少しています。



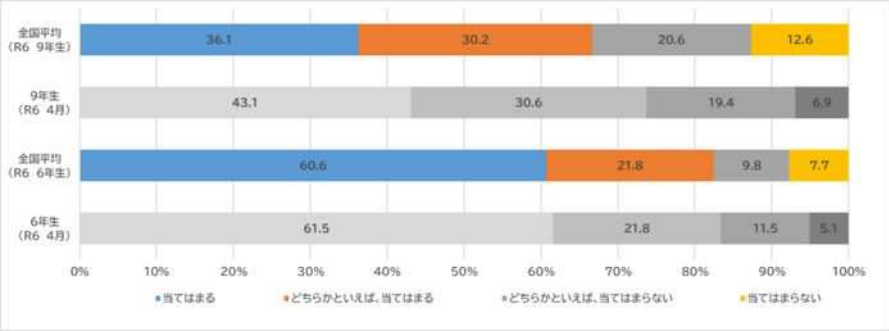


この質問項目は本校が９年間で身につけたい資質・能力の一つである「多様性を受容する力」と関わるものです。これは、人権教育や道徳教育を根幹とする「生徒一人ひとりが様々な考えをもつこと」を大切にした学習の成果だと捉えています。また、昨年度に引き続き、肯定的な回答が多かった「楽しく学校生活を送っている」という質問項目とも関わっています。生徒一人ひとりの良さが大切にされ、励まし合える仲間がいるからこそ、「学校が楽しい」と感じることができると捉えています。また、そのような温かい学校・学級だからこそ安心して自分を表現し、他者も大切にすることができ、「社会的欲求」で記した「対話的な授業」「協働的な学び」の下支えになっていると感じています。今後も生徒一人ひとりの様子をしっかりと見て、生徒の悩みや思いに寄り添う姿勢を大切にしていきます。

Ⅴ　自己実現の欲求（自分の能力や可能性を最大限に発揮し、自己成長を追求する欲求）

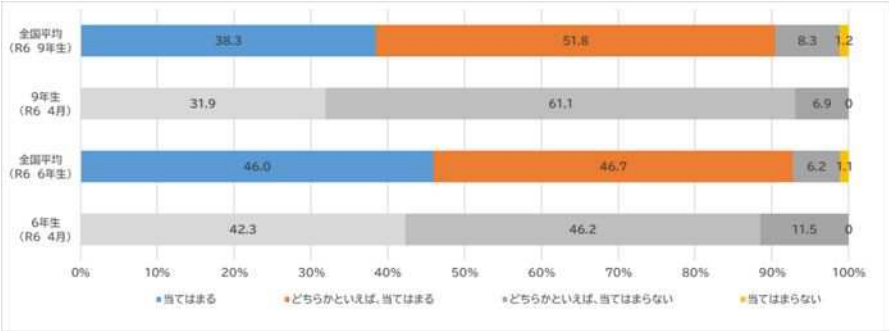
「自己実現の欲求」に関する全国学力調査の質問項目は、以下の通りとなります。

全国調査（11）将来の夢や目標を持っていますか



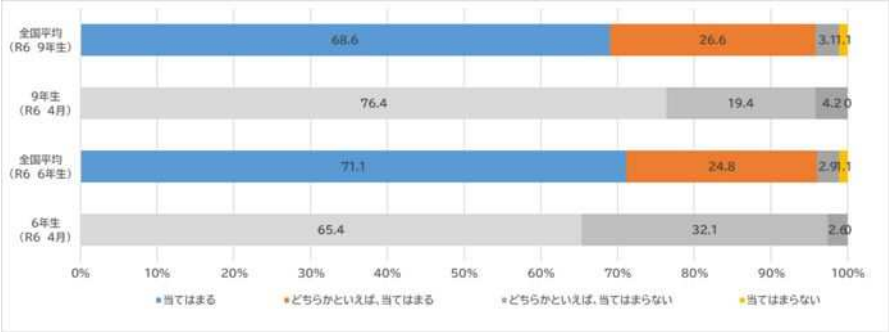
「将来の夢や目標」においては、全国と比べ6年生・9年生ともに肯定的な回答は高いことがわかります。ただし、キャリアパスポートや進路学活を通して、生徒の声に耳を傾けると具体的な夢や目標ではなく、「働く。」「高校に行く。」といった回答です。

全国調査（12）人が困っているときは、進んで助けていますか



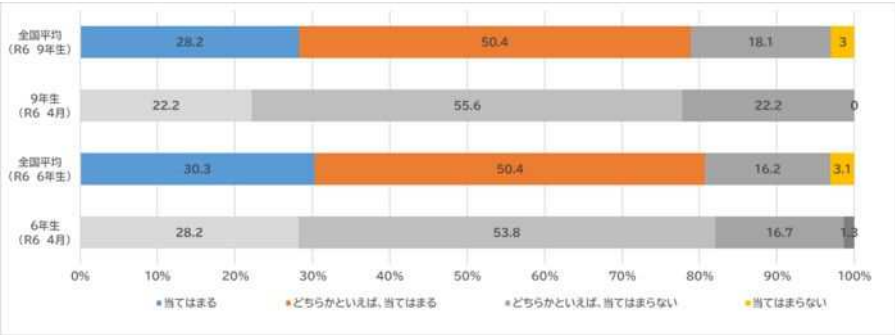
この質問項目においても、6年生は若干全国と比べ低い回答結果ではあるものの、全国と比べても差異はなく、高いと言えます。

全国調査（15）人の役に立つ人間になりたいと思いますか



「人の役に立ちたい」においても、全国と比べ高い回答結果でした。ただし、（11）と同様、生徒に聞くと、具体的に「〇〇をして役立つことをしたい。」ではなく、漠然としたイメージでの回答となります。

全国調査（20）分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

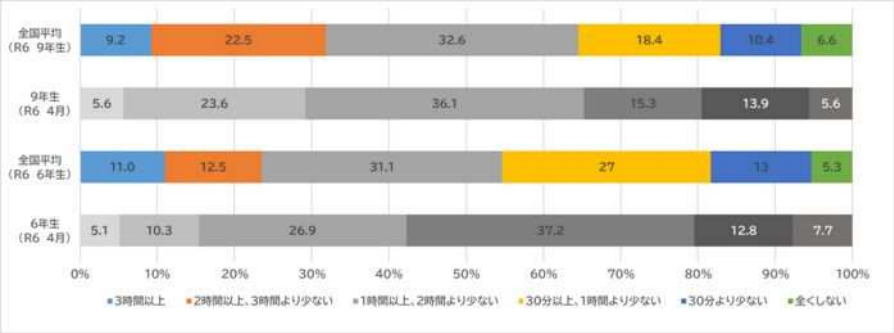


「学習」だけに留まらず、未知のことに出会った時の、知的好奇心や興味・関心において、6年生は高く、9年生は低いことがわかりました。

全体的な回答結果を見ると、全国平均と比べ、高いことがわかりました。しかし一方で、それらの回答結果は、6年生・9年生ともに具体的・具体性のあるものではなく、自身の経験則をもとに漠然と感じたり、考えたりしていることがわかりました。そのため、「自己実現」を行うための、具体の取組（学習時間）には、大きく課題が見られます。

全国調査（21）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

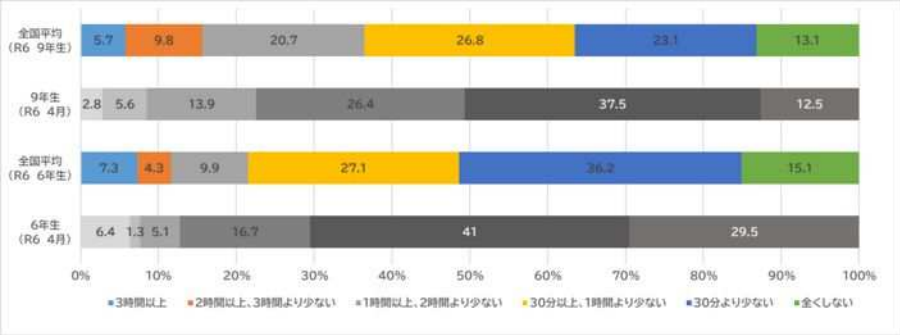
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



「平日１日あたりの学習時間」は、6年生・9年生ともに全国と比べ低いことがわかります。これは、学習習慣の確立ができていないことを示唆しているように感じます。

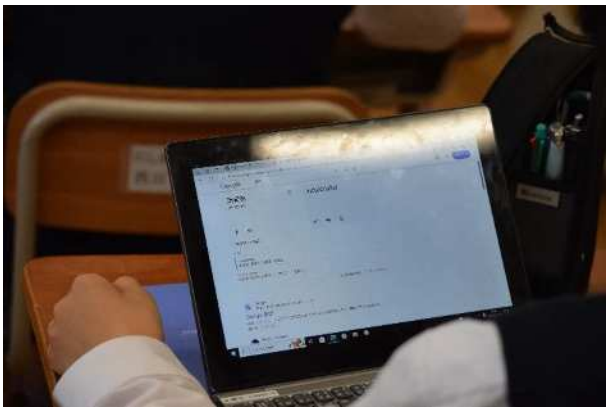
全国調査（22）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



上述してあげた「平日」と同様「休日１日あたりの学習時間」においては、平日以上に顕著に課題を感じています。

これら「学習習慣の確立」の課題の１つは「社会的欲求」に先述している学習上の悩みが大きく影響しているものだと捉えています。①学習を進める上で計画を立て、必要に応じてそれらを修正していくこと②自らの学習過程を客観的に捉えることができないこと③自身が行っている学習方法の良し悪しを検討し、課題に応じた最適な学習方法を選択することができていないこと が考えられます。これら3つの要素が相互作用し働いていないため、生徒は学習に対して消極的な状況が生まれているように感じます。実際、現在「自己実現」の入口と言える「高校入試」に向けて、頑張る9年生に聞いてみました。



がんばる受験生に聞きました

今回、回答してくれた９年生

9年　ひたむきに進路実現に向かう生徒

私立入試・公立前期選抜が目前に迫る中、放課後に一生懸命問題集と向き合う生徒に７・８年時をふりかえりつつ今の気持ちを聞きました。

Q これまで（7・8年時）自宅でどんな学習をしていましたか？

〈生徒〉各教科の先生から出される課題をこなす程度でした。早い課題だと約十分程度で終わるものもあったので、今考えると全くない日もありました。

Q その時は、どんな気持ちでしたか？

〈生徒〉んんー。なんだかわからない不安とちょっと罪悪感を持ってはいましたが…。部活が終わって、家に帰ると6時くらいに晩御飯を食べる日もあって。そこから、お風呂に入って、友だちと電話して、好きなゲームをして、携帯で動画を見て…気づいたら十二時近くになっていて…眠いし寝よう。そんな日を何日も、いや何カ月も過ごした時もあったように思います。

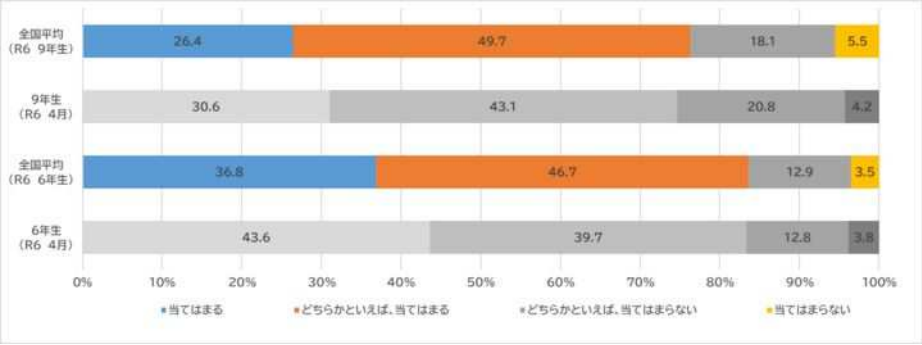
「うわー。やらなあかんな。」とか　思うんですが、頑張って机に向かって頑張ろうという行動までうつすことができませんでした。

Q いま、過去に戻って、自分に何か声をかけれるとするなら、なんて言いますか？

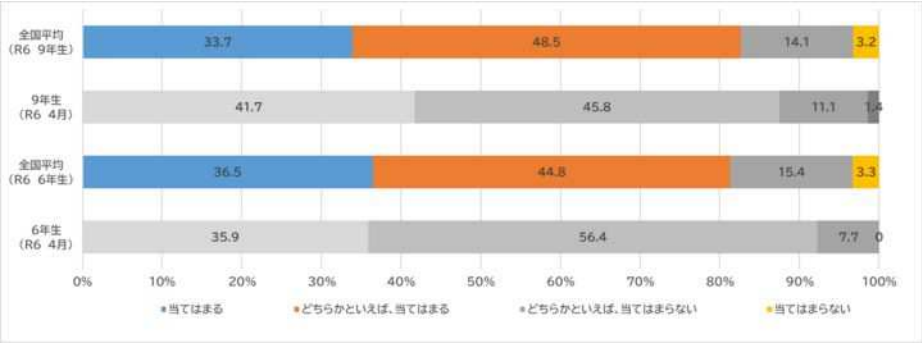
〈生徒〉「机に向かえ！勉強しろ」この一言を大声で過去の自分に言いたいです。

僕は今むちゃくちゃ行きたい高校が見つかったんです。部活も、学校の雰囲気も、高校卒業後の進路も…全て僕が考えていたことと一致して、本当に行きたい高校がみつかりました。けど、その高校が、これまでの自分なら、合格までかなり遠いこともわかりました。だから、今必死に朝も晩も勉強しています。でも、なかなかすぐに結果が出ないんです。それに、問題をやりながら7年生・8年生の復習が必要だったり、5教科の3年間を一機にやったり…今すごくあせっているし、後悔しています。だから、昔の自分に言いたいです。高校に合格できたら、1年生から頑張ろうと思っています。

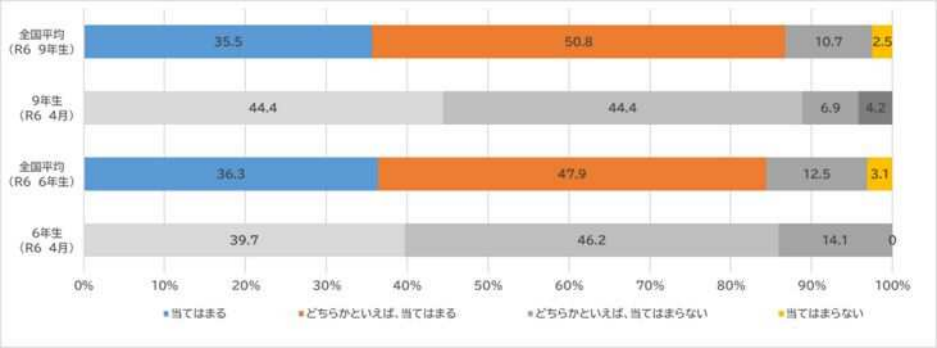
全国調査（25）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



全国調査（38）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



全国調査（39）あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



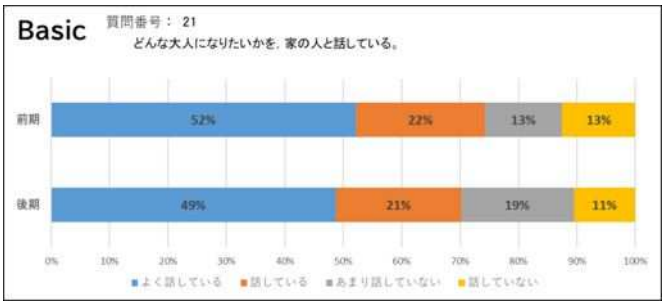
全国調査（25）（38）（39）も全国と比較すると高い回答結果ではありますが、「自己実現」に向けた欲求は高いものの、漠然とした思いが高く、それを実現していこうとする意欲や努力に課題を感じます。

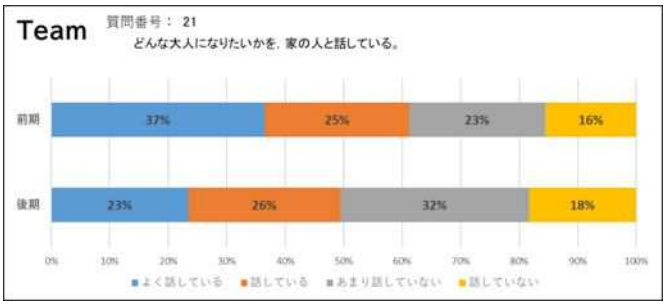
生徒が自己実現に向けて、「高校進学」といった目標や、「将来〇〇になりたい。」という夢はあるが、その方法やそれに受けた計画がうまく立てられない現状を打破することを強く感じます。

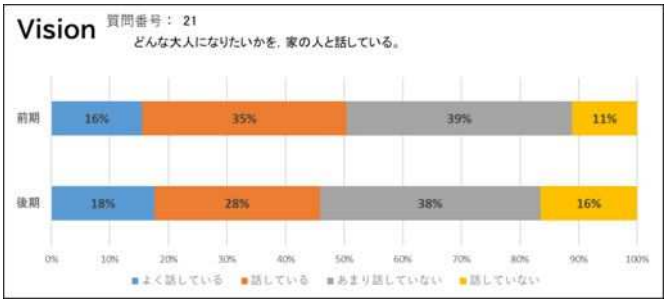
今年度、マズローの5段階欲求説を拠り所に分析を進める中で、本校の取組や、生徒が主体となっての活動（授業・部活・生徒会、委員会、学校行事）においては、一定効果があり、成果として捉えることができると感じています。

しかし、ピラミッド形態での欲求にあてはめていくと、本校の特徴として、土台となる「生理的欲求」が低く、上の階層に位置する欲求ほど満たされていることがわかりました。これは、極めてアンバランスな状態であると考えています。

もっとも下位に位置する「生理的欲求」が、すべての欲求の基礎となると捉えるのであれば、土台が低い状態で、本校が掲げる学校教育目標の達成「他とつながる力・未来を拓く力の育成」及び、6つの資質能力の育成において課題となることが予想されます。







左の設問では、9 年間の学校生活のあらゆる場面で、生徒が未来の自分の姿をいかにイメージして過ごしているか、さらに家庭内でそれらを共有していくことで、なりたい自分の姿がより具体的なものになっているかについての質問となります。

学年が上がれば上がるほど「よく話をしている・話をしている」との回答が少ない現状があります。

しかし、後期の VisionStage での「よく話をしている」が 2%増えている結果が見られたことは、アンケートを取った 2 学期末に卒業後の進路の話などを具体的にしていただいたからだと捉えています。

これから生徒たちが生き抜いていく社会は、人工知能等の情報技術の進展やグローバル化といった変化が人間の予測を超えて、急速に進展していくと言われています。今年度も、社会情勢や生徒を取り巻く状況においても、多くの目まぐるしい「変化」がありました。本校は、そんな未来を担う生徒たちが、こういった「変化」の中においても、高い志と意欲を持ち、生きていく上で大切な、『自らを律し、他者と協働し、たくましく生きる』という力を身につけてほしいと考えています。そのために、「誠実さ・謙虚さ・思いやり・感謝・純粋な心・挫折に負けない心」といった豊かな人間性を育むことを教育の柱とし、教育活動を推し進めてきた次第です。また、それらの人間性を育むことで、今後生徒が「変化」に対応できる「知・徳・体」のバランスのとれた人間力を高めることができるとも捉えています。

後期学校評価アンケートに目を向けると、「思いやりの心をもって過ごしている」や「自身をより良くしようとする」といった本校が学校教育目標達成に向けた資質・能力の向上を見とる質問に、多くの生徒の回答が①・②（肯定的な意見）を選択してくれていました。本校の取組が少しずつではあるものの、上述したものの実現へとつながっているように感じます。

また、「ピア交流」を意識した学校行事では、学年・ステージを超えた感動を多々見ることができました。数字として表れていない部分となりますが、日々学校現場において、生徒の言動の変容が教職員一同喜び合う機会となりました。

しかし一方で、地域の人々・保護者の方々の願いである「9 年間の学びと育ちのつながり」を一つにする点においては、まだまだ発展途上にあるとも捉えています。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成において、「あまり出来ていない」「出来ていない」割合に一定変容が見られません。これは、9年間という今までにない長く連続した期間の中で、我々は生徒の学びと育ちをつなげていくための「授業の質」を高めることや、9 年間を見通したカリキュラムの系統的な指導の実践、高い意欲で学び続けること、心豊かな人間性の育成など、チャレンジしていくことが多々あることだと捉えています。

また、本校がこの地域の人々の願いや協力によって開校した際のコンセプト「変える・変わる」を軸とした「学びのつながり」「育ちのつながり」「人のつながり」をより良い形へ発展させていきたいと考えています。

今年度、「**しあわせ**」をキーワードに、生徒はこれまで以上に学校生活を一生懸命に楽しむ姿や、様々なことに取り組む姿・言動が見られました。ついつい我々大人たちは、「子どもに良かれと思って」や「もっと向上してほしい」「もっと力をつけてほしい」と、口うるさくできていないことや、修正すべき所を指摘したり教えたりしがちですが、それよりも大人が目を細めて見ることができる機会をたくさん作り、「ありがとう」が出てくる関わりを、これからも追いかけていきたいと思います。

最後に、学校から配布するプリントの多くを電子配信させていただいております。それに伴い、PTA メールや学校 HP 等で保護者の皆様に直接確認してもらうことが増えました。ご協力ありがとうございます。今後も学校の様子や学年からお知らせしたいことなど、HP に掲載していきますので、ご覧いただき、ご家庭でお声かけ等していただけるとありがたいです。